

平成22年度 防災教育チャレンジプラン
たすけあい防災カレッジ IN 宮城・山形
～小学生のための福祉防災教育
NPO法人ディー・コレクティブ

2011年2月26日(土)
最終報告会

「たすけあい防災カレッジ」 中間報告会を受けて・・・

「重度の小麦アレルギーの子どもは、
パンを食べた手で握ったおにぎりを食べることはできない」

→困っている人がいることを伝えたい

→災害時だけに困るのではない。日常からの支えあいの意識が大切

「福祉のまちづくり＝災害にも強いまちづくり」

子どものもつ力を引き出す

→子どもを「災害時要援護者」というカテゴリーにとどめない。

困っている人に、普段から手を差し伸べられる人へ

「宮城県沖地震」を知らない山形の小学生

→「知らないこと」の怖さ

→正しく知り、正しく備える

宮城と山形をつなぐ

→具体的なつながりをつくる

改善策その1:プログラムの組み換え

防災の基本:「自助」プログラム

- 「地震」を正しく知る
- 自分で自分の身を守る方法を知る

皆で助け合って災害を乗り越える:「共助」プログラム

- 4つのテーマ:アレルギー・障がい者・高齢者・ペット
- テーマ毎のガイダンス、ブースリレー、クイズ、ゲーム

多様な支援方法を知る

- 災害救助犬デモンストレーション

改善策その2:開催日・会場の一本化

宮城と山形で開催予定

- 「宮城県沖地震に備えるための、宮城・山形の連携」
・・・「具体的な交流」が必要不可欠

山形で開催

- ・・・被災経験のない山形で開催することで、気づきを生むきっかけづくり
- 宮城の子どもたちに参加してもらおう
・・・このお友達が被災したら・・・
- 前回の宮城県沖地震の時に小学生だった方のコメント
・・・自分だったら・・・
- 宮城県沖地震に備えて活動するNPO・企業を講師に招く
・・・啓発に向けての相乗効果
県境を越えた、関連団体のネットワーク構築

プレイベント: クリスマストークサロン

障がい児・者福祉施設の防災対策～取り組みを考えよう～

- 山形の災害時要援護者対策の現状を知る
 - 地域で災害時要援護者を支えるポイント、支えあうことの大切さを、参加者とともに考える
-
- 12月23日(木・祝)13:30～15:30
 - 天童市総合福祉センター
-
- ゲストトーク「県内障がい児福祉施設における防災対策の現状」
NPO法人 のびのび会 ワークポケット 理事長 藤井 俱子 氏
 - トークサロン
参加者の皆様と自由に意見を交わしながら、福祉施設における防災対策、災害時要援護者対策の現状と今後を考えていく。
-
- 参加者: 13名(参加者8名、スタッフ4名、講師1名)



トークサロンを通して・・・

- 4つのポイント
 - 1、イベントありきにしない
 - 2、施設や組織のリーダーに防災意識をもってもらうための仕掛けを作る
 - 3、地域とのつながりをつくる
 - 4、行政の現状理解を得ながら、協力体制を構築する

- 「地域とのつながり」
 - ・・・たすけあい防災カレッジにおいても重要なキーワードに！
- 「たすけあい防災カレッジ」共催団体・講師との意識共有・つながりの構築にも

たすけあい防災カレッジ

～せまる宮城県沖地震！『共助』のパワーでのりこえよう！

1. 参加者である子どもたちを通して、大人に対しても「災害時要援護者」の存在とその課題・対応法の周知を行う
2. 共助の精神（思いやり・助け合い）・福祉的視点からの心の育成、防災への理解促進
3. 宮城県沖地震に備えて、県境を越えたつながり・支え合いが必要であることの周知
4. 次世代の防災リーダー育成の一環
（スタッフの一員である大学生、参加者である小学生含む）

- 1月15日（土）13:00～16:30
- 山形市総合福祉センター
- 参加者59名（子ども19名、保護者7名、一般10名、講師16名、当団体スタッフ5名、大学生ボランティア2名）
山形：45名 宮城14名

【自助】地震について知ろう(30分)

- ・地震の起こるしくみ
 - ・宮城県沖地震について
- (NPO法人ディー・コレクティブ)



【共助】災害発生！皆で助け合おう(100分)

- ・「共助」とは？
- ・ブース毎全体ガイダンス



【ペット】NPO法人エーキューブ

【障がい者】NPO法人ドリーム・ゲー

ト





【アレルギー】有限会社ヘルシーハット

【高齢者】山形県障がい者スポーツ協会



・ブースラリー: 4つのブースを回り、資料やお話、体験学習を通して知識をつけ、クイズブック「たすけあいのしおり」を解いていく。

【ペット】NPO法人エーキューブ



【障がい者】NPO法人ドリーム・ゲート



【アレルギー】 有限会社ヘルシーハット



・たすけあいゲーム:グループ毎に配られた飴。
人数と個数が合わない、さあどうする？
(NPO法人にいがた災害ボランティアネットワーク)



- ・災害救助犬デモンストレーション(30分)
災害救助犬の紹介、多様な支援方法を伝える
(NPO法人災害救助犬ネットワーク)



参加者の声

- みんなとふれあえた
- あぶないとわかっていながらもなかなか災害について考えることは少ないので、今回こういう機会をもらえて大変うれしいです
- 山形・宮城交流！！大変楽しい勉強が出来ました。ありがとうございました。
- クイズや体験などから、たのしくまなべてたのしかった。しょうがい者に対しての気持ちが変わりました。
- みんなに会えてよかった。改めて、こわさを知れてよかった。また、また来たいと思っています。
- 私は、しょうがいしゃの名前や、ふだんの生活についてわかったので、楽しかったです！またきまーす
- きゅうじょけんがかっこよかった。
- クイズや、体験など、子どもを対象にしているので、とても楽しく学習できました。これからも、今回習ったことに気をつけていきたいです。
- しょうがいしゃのことで、おようふくをきがえさせることをおともだちとしました。はじめてだったので、むずかしかったし、ドキドキしました。

成果

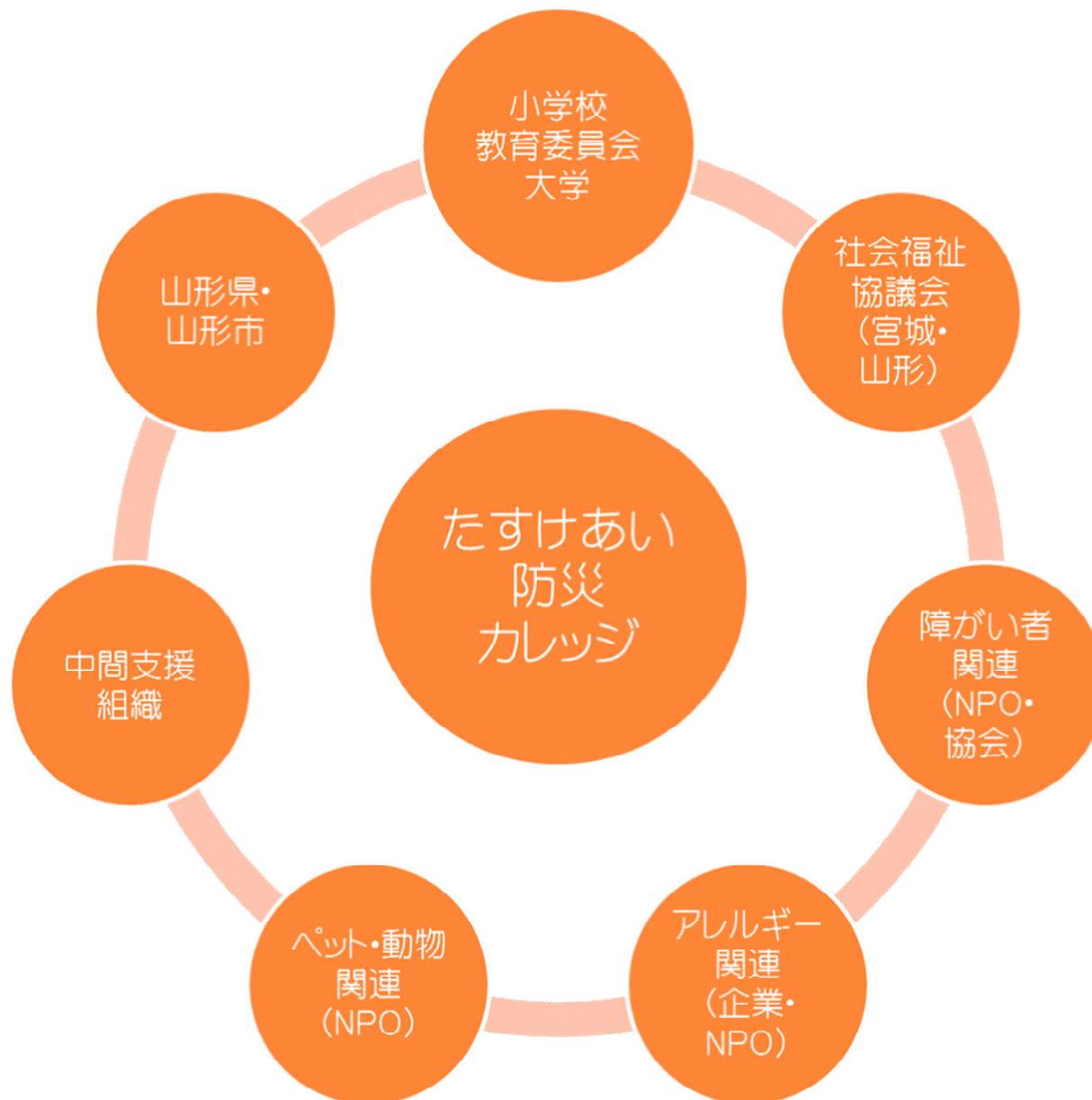
- 福祉防災教育プログラム・教材の開発・実施
- 山形県内における、宮城県沖地震の啓発
- 県境を越えた多様な連携・つながりの構築
- 人と人とのつながり・コミュニケーションの大切さ
- 当事者やその支援者が声をあげること、
地域と関わることの大切さ
- 大きな被災経験のない山形での開催事例

課題

- 宮城での開催
- プログラムの発展・応用
- 対象の拡大（低学年～大人まで、当事者、等）

多様なつながり・・・

平常時から、深め、広げ、活かしていくために。



一年間ありがとうございました。

